

平成 22 年 5 月 14 日 記者会見 質疑応答（大阪）

発表内容：平成 21 年度決算について

日 時：平成 22 年 5 月 14 日（金）15 時 23 分～16 時 5 分（42 分）

場 所：関西金融記者倶楽部

発 表 者：りそなホールディングス 檜垣社長、りそな銀行 岩田社長
近畿大阪銀行 桔梗社長

【質疑応答】

Q. りそな銀行と近畿大阪銀行の連携についての具体策があれば教えて欲しい。

A. （桔梗社長）

- 例えば法人のお客さまで新入社員が入った場合などを考えると、近畿大阪銀行のお客さまであれば当然取引銀行で給与振込口座をという話にこれまでなっていました。これからは近畿大阪銀行またはりそな銀行でお願いしますというような連携をやっていきたいと思えます。グループとして一体でできることはどんどんやっています。
- また、不動産、遺言信託、遺産整理あるいは企業年金等の信託業務についても、りそな銀行の代理店としてこれまで以上にやっています。また、情報リレーション活動についてもりそなと一層連携してやっていきたいと考えています。他にもこれから具体的なものをどんどん出したいと思えます。

（岩田社長）

- 私からは商品という視点でお話をさせていただきます。信託の機能は、お客様に合わせてオーダーメイド型で提供することが可能であるというところに特色があると考えています。信託は、遺言信託のように一般化したものや、自社株承継信託のように個々のニーズに合わせて販売するものといった 2 種類に分類されます。お客さまの新しいニーズを掘り起こしていくということについては、この特徴を活かして 2 行が効果的に連携できると考えています。これからどんどんいい効果が現れてくると期待しております。

（桔梗社長）

- 地方銀行の目線で見ますと、メガ並みの信託機能を持った銀行とタイアップして営業展開している地方銀行は恐らく全国にもないと思えます。よりお客様に近い目線で信託機能を提供できるという特色あるサービスをりそなグループ一体となって展開していきたいと思えます。

Q. 岩田社長も来られて、大阪に力が入っているなということがうかがえる。先日りそなホールディングスの本店が東京へ移転するという報道があった。顧客からは、誤解も含めて厳しい声などがあったのか？

A. （岩田社長）

- 誤解も含めてということであれば、ないと言えば嘘になります。しかし、ほとんどなかったという風にご認識いただいて結構です。私も従来から頻繁に大阪に来ております。今回そういった誤解があつてはいけないということで、わざとその話題を訪問先で出すことが多かったのですが、「よく分かってますよ。銀行の本体は大阪に残りますからね。」とご理解いただける声がほとんどでした。私共がしていた心配は杞憂に終わったという気がしています。「これまで以上にこの大阪でりそな銀行として力を発揮して欲しい」という激励の声のほうが多かったように思います。HD の檜垣

社長、りそな銀行の私と廣富副社長、近畿大阪銀行の桔梗社長とこれまで以上に連携してしっかりやっていきたいと考えています。

(檜垣社長)

○グループとしてどんな状況においても安定して業績を上げる態勢は整ってきていると思います。従って、安定的な資金供給が果たせるという自信もついてきました。大阪でしっかりと役割を果たしていけると考えています。

Q. 近畿大阪について与信コスト、比率が増加しているが？

A. (桔梗社長)

○与信費用については前期比 24 億増加しておりますが、大口の貸倒れや新規発生が増えているわけではありません。地方銀行が本当に地域に根ざす形で、中小企業や個人を支援していけばこういう結果になるのはある程度当然だと思っています。来期も概ね横ばいの与信コストを見込んでいますが、現在の状況を考えるとこのぐらいが妥当な水準だろうと思います。ただ、いたずらに支援するというのではなく、地元企業応援部で今後の経営改善に向けて、しっかり 1 社 1 社全先をフォローしています。また、情報リレーション部を活用してお客さまの本業を応援するといったこともやっています。これこそが本当の地域金融機関であると自負しています。与信費用は引続き現在の水準が続くとは思っていますが、本年 4 月から地元企業応援部内に「戦略融資室」を立ち上げて、中・大口先もこれまで以上に見ていくので、大口先等コントロールのできないものが増えることはなく、このスタイルでいきたいと考えています。

Q. りそな銀行の貸出金の末残でみた場合、関西に占める割合というのは増えているのか？

A. (岩田社長)

○中小企業の貸出金ということで言うと、ほぼ横ばいと考えていただければ結構です。
○付け加えて預金で言うと大阪府下で 1000 億程度増えており、微増となっています。

Q. 銀行個別のコア Tier1 比率は？

A. (檜垣社長)

○グループ連結ベースでは 7%弱となっています。グループ経営を行っており、個別銀行ベースでの評価は余り意味がないということを是非ご理解いただきたいと思います。

以上